

リプラ f エンドレスコンテナ 施工要領書

令和3年2月

南出株式会社

<目次>

■ 摘要範囲

■ 使用材料

■ 運搬荷姿

■ 資材の寸法と基本的な考え方

■ 施工手順

■ 資材の物性

■ 摘要範囲

本図書は「リプル f エンドレスコンテナ」の搬入から取付工事までを摘要する

■ 使用材料

1、リプル f エンドレスコンテナ

- ・ A. W500 x L1800 x H500 (両端窓枠) 9 基
- ・ B. W500 x L1800 x H500 (方端窓枠・方端板) 1 基
- ・ C. W500 x L600 x H500 (方端窓枠・方端板) 1 基

2、ステンレスビス (付属)

120 本



(商品イメージ)

■ 運搬荷姿

1、リプル f エンドレスコンテナ

- W900xL1800mm のパレットに、横 2 列×縦 3 段で 6 基乗せる
- 各々がストレッチフィルムで巻かれ、運搬時に瑕疵がない様になっている
- 運搬中に荷崩れしないよう、6 基を PP バンドで手締めされている
- パレット・PP バンド・ストレッチフィルムは、荷受時に適宜排除してかまわず、また、荷受け人が廃棄することとする

2、ステンレスビス

- 通常は、積載時の一番上のコンテナの中に入っている
- 今回は、接続 1 箇所当たり 12 本×接続 10 個所で 120 本の用意がある

■ 資材の寸法と基本的な考え方

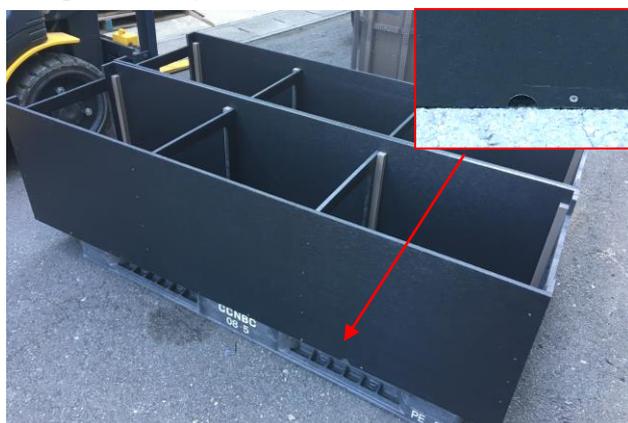
- 基本寸法は、A, B は W500xL1800xH500mm、C は W500xL600xH500mm とする (図①)
- 荷重は、A, B は概ね 40kg/基、C は概ね 16kg/基とする
- 両端と、端部から 600mm、1200mm の位置に窓枠が入っており、窓枠があることで変形に対して強度が出る仕組みとなっている (図①)
- 11 基並べた場合の両端の 2 台は、片側の端部が板でふさがれている (図②)
→ B-A-A-A-A-A-A-A-A-A-C の順で並べる
- 11 基並べた際に 900mm 毎に、排水の穴が手前側の側面に来ようになっているので、設置時には注意が必要 (図③)



(図① 今回の場合の基本寸法)



(図② 両端を板でふさぐ順に並べる)



(図③ 側面の排水穴)

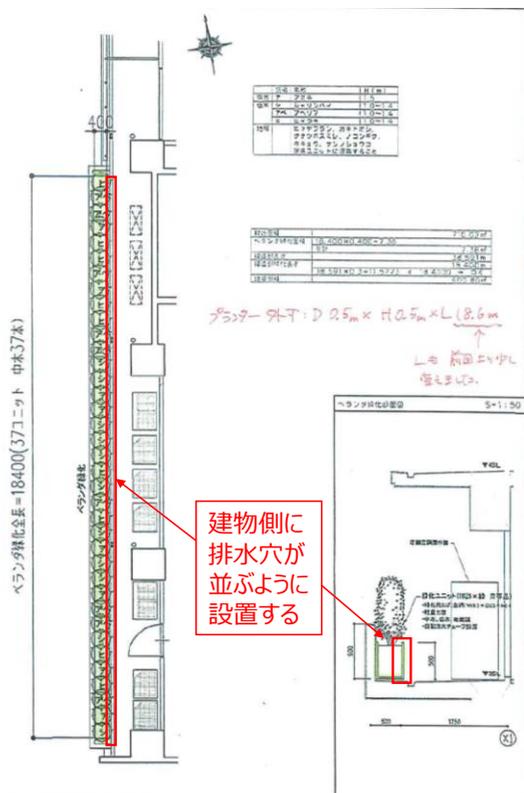
■ 施工手順

1、材料搬入

- 設置場所を清掃する
- 荷揚げをする
 - ・ パレットに積んである場合が多いため、リフト等でパレットごと、施工場所付近に荷揚げするか、または、
 - ・ 実際に組み立てる場所まで人力で小運搬し、梱包を解く（ラッピングフィルムを排除する）

2、仮設置

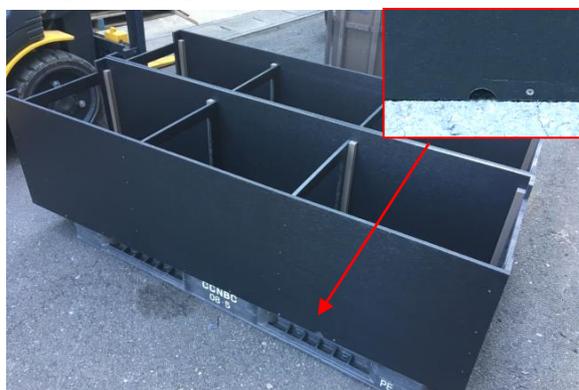
- エンドレスコンテナを現地に仮置きする（図⑤）
- その際、両端を板でふさぐように並べる。
 - B-A-A-A-A-A-A-A-A-A-C の順で並べる。
 - ・ A. W500 x L1800 x H500 （両端窓枠） 9 基
 - ・ B. W500 x L1800 x H500 （方端窓枠・方端板） 1 基
 - ・ C. W500 x L600 x H500 （方端窓枠・方端板） 1 基
- 今回の現場では、排水穴が片側にしかないので、置き方を注意する（図④、⑥）



(図④) 排水穴の方向



(図⑤) 仮置き時のイメージ



(図⑥) 排水穴が目立たないので注意

3、高さの調整

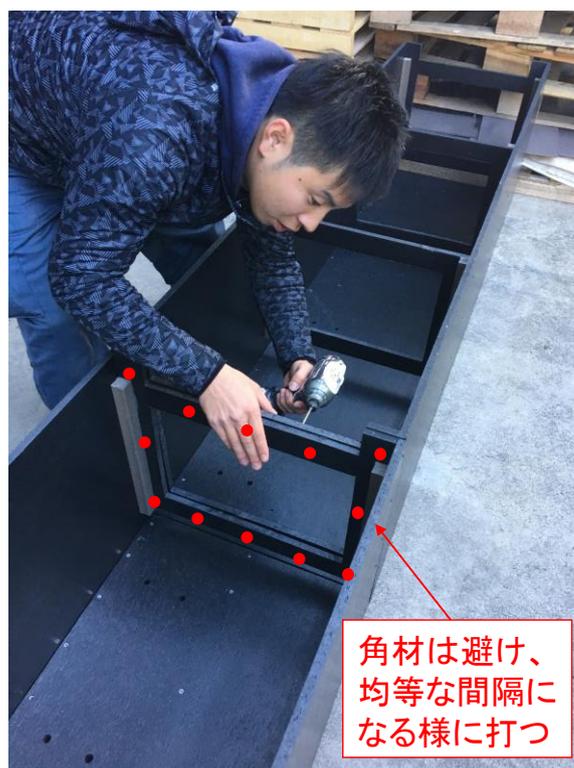
- エンドレスコンテナ同士の接続部分で高さにずれがないかを確認する
- GLの凸凹等で収まりが悪い場合は、必要に応じてレベル調整材を使用する
 - ・エンドレスコンテナは水平な場所で真っ直ぐ繋がるように製造しているため、接続部分で段差が生じる場合は、地面の水平が取れていないこととなる
- 特に凸凹がきつい場合は、床塗り補修等により平らにして頂くことが前提となる

4、プランター同士の接続

- プランター同士で、端部の窓枠がぴったり合うように設計されている
- 端部の窓枠を、ビスで接続する
 - 今回は、プランターの接続1箇所あたり12本をビス打ちする（図⑦、⑧）



(図⑦ 接続部のビス打ちイメージ)



(図⑧ ビス打ちの箇所(12箇所))

■ 資材の物性

<リプラ f ボード・角材について>

性 能			
	試験結果	単位	試 験 方 法
比重	0.65	—	JIS K 7112 A法 温度：23℃
曲げ強度	24.2	MPa	JIS K 7171 支店間距離：200 試験速度：10mm/min
曲げ弾性率	808	MPa	JIS K 7171 支店間距離：200 試験速度：10mm/min
シャルピー衝撃強さ	29.6	kJ/m ²	JIS K 7111 打撃方向：f
荷重たわみ温度	49.1	℃	JIS K 7191 A法 試験片の方向：e
加熱寸法変形率	0.38	%	JIS K 6767による試験片、初期温度23℃から63℃まで10℃ずつ上昇、変化率：S (%) = (163-133) / 133 × 100
吸水率	0.065	g/cm ³	JIS K 6767 B法
くぎ引き抜き強度	281	N	JIS Z 2101 木材の試験方法24
圧縮強度	6.6	MPa	JIS K 7220 試験速度：1mm/min 試験片寸法：50×50×12
耐薬品性（1wt%硫酸）	著しい変化なし		JIS K 7114 23℃の液中に7日間静置
耐薬品性（水酸化カルシウム）	著しい変化なし		
耐油性（灯油）	著しい変化なし		
耐油性（潤滑油）	著しい変化なし		

（数値は測定値であり、保証値ではありません。）

上記各種試験は以下の機関で行いました。

溶出試験：「三重県環境保全事業団」

性能試験：「愛知県産業技術研究所」

以上